

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 10月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム あさひの家		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54 (電話) 011-875-2522		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月13日	評価確定日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年1月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	24人、非常勤 0人、常勤換算 21人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1~3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~42,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 20,000-25,000円	
敷金	(有) (35,000~42,000 円)	無	暖房費: 10,000 円(11-3月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) () 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり		1,240 円	

(4) 利用者の概要(9月10日現在)

利用者人数	27名	男性	5名	女性	22名
要介護1	5名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	7名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	68歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人誠医会よつばクリニック、さくら歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム あさひの家」は、運営者が手すりなど福祉関連資材を取り扱っていた事が契機となり、地元へ社会貢献の思いで設立している。町内会との交流も頻繁で、小中学校の職業体験などの受け入れも積極的に行っている。管理者や幹部職員は人望も厚く、職員との信頼関係を深める事で定着率も良く、安定した温かなケアが行われている。利用者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、利用開始時や入浴時など利用者が納得してサービスを受けられるようきめ細かな配慮が行われている。今年度は、「札幌GH合同事業体」を結成し、研修会や相互訪問など更なるケアの充実の計画がなされている。利用者は、家庭的な雰囲気の中、明るい笑顔で日々生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取り組みは、職員全員に評価表を配布し記入してもらうことで一般職員の参加の度合いが深められている。同業者との交流は、今年度複数事業所連携による「札幌GH合同事業体」を結成し、研修会や相互訪問などの計画を立て準備が進められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、自己評価表を各自に配布し記入してもらい、各ユニットの計画作成者が中心になって作成し、管理者がまとめあげている。職員は自己評価を行う事により、日々のケアの見直しや気づきに繋がったと感じている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族や町内会長、地域包括支援センター職員、有識者などが参加して3ヶ月毎に開催している。事業所の現況報告や日々の活動内容報告とともに、自己評価や外部評価結果の報告も行なわれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「あさひの家新聞」を季節毎に発行し、行事の様子を写真で報告したり、認知症についての情報などを掲載している。個々の体調変化や日々の様子は「家族ノート」に記録して家族に報告している。家族の来訪時に積極的に話しかけて、意見や要望、不満などを引き出せるように心掛けている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して行事の手伝いをするとともに、敬老会や夏祭り、歩道の花植えなど利用者と共に参加している。事業所の夏祭りには地域住民がボランティアとして手伝いに来てくれたり、参加したりと地域との交流が活発に行われている。区内の小、中学校の生徒の職業体験やでっち奉公の施設としても積極的に受け入れを行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが地域密着型サービスに位置づけられた時に職員全員で理念を見直し、楽しく笑顔で一人ひとりの人生が輝くようにと願いを込めて、家庭的な雰囲気や人権尊重、家族・地域社会とのつながりの大切さを柱とした新しい理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに掲載し、玄関や各ユニットの事務所に掲示している。理念については会議の時に管理者が取り上げたり、日々の仕事の中で職員同士で話しをするなど、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して行事の手伝いをするとともに、敬老会や夏祭り、歩道の花植えなど利用者と共に参加している。事業所の夏祭りには地域住民がボランティアとして手伝いに来てくれたり、参加したりと地域との交流が活発に行われている。区内の小、中学校の生徒の職業体験やでっち奉公の施設としても積極的に受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、前回の外部評価を踏まえて自己評価表を各自に配布し記入してもらい、各ユニットの計画作成者が中心になって作成し、管理者がまとめあげている。職員は自己評価を行う事により、日々のケアの見直しや気づきに繋がったと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族や町内会長、地域包括支援センター職員、有識者などが参加して3ヶ月毎に開催しており、事業所の現況報告や日々の活動内容報告を行なっている。自己評価や外部評価結果についても報告し、活発な質疑応答は少ないが意見を求めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との業務連絡の他、区主催の認知症予防教室の手伝いなどを行っている。職業安定センターなどの行政機関と連携をとり、介護基礎研修などの研修生の受け入れを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「あさひの家新聞」を季節毎に発行し、行事の様子を写真で報告したり、認知症についての情報などを掲載している。個々の体調変化や日々の様子は「家族ノート」に記録して家族に報告している。金銭出納報告は毎月郵送で行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に積極的に話しかけて、意見や要望、不満などを引き出せるように心掛けている。家族からは、利用者とのコミュニケーションの取り方などについて相談される事もある。意見箱を設置しているが、まだ活用された事はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な異動は行われていないが、退職や人事異動で、今年度1名ずつユニット毎に異動が行われた。異動や退職時には、それぞれの職員が利用者 に説明をしている。異動後も以前のユニットの利用者との交流が行われているので、利用者へのダメージはないと感じている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じて、年間の外部研修の受講計画がおおまかに立てられている。年間の内部研修計画を作成し、管理者が講師となり緊急時対策や形態別介護技術、事例検討などの研修が毎月行われている。職員の資格取得のためにシフト調節を行い、積極的に資格取得の援助を行っている。	○	職員により、外部研修の参加状況にばらつきが見られるので、全職員に研修参加機会が均等に与えられるよう期待したい。外部研修後に事業所内で報告の機会を設ける事で、職員全体の更なるレベルアップを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区のグループホーム管理者連絡会の研修会やグループ討議などにおいて、他の事業所職員と交流が行われている。昨年は、管理者の知り合いの事業所との相互訪問を1回行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	複数事業所連携による「札幌GH合同事業体」を結成し、研修会や相互訪問の計画が立てられているので、交流の活発化を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家族や本人に見学してもらうとともに、管理者が本人の自宅などを訪問し、納得してサービスを開始出来るように配慮している。利用開始時は、声かけを多くするなどの配慮をする事で殆どスムーズに馴染んでいると感じている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、裁縫やつけものの作り方、畑で収穫した野菜の調理法などを教えてもらっている。「十五夜の歌」や「手まり歌」など初めて知る歌も多く、利用者に学ぶ事が多いと感じている。利用者共に「有難う」と笑顔で声かけしてもらう事で、職員はもっと頑張ろうと言う意欲に繋がっていると感謝している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者への声かけで思いや意向の把握に努めている。表現力の低下している利用者の思いや意向は、家族からの情報や生活歴、日々の係わりの中の表情や言葉から把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	当初の計画作成時に管理者および計画作成担当者が本人や家族と面談し、医療関係者の意見も踏まえ計画書を仮作成する。計画書は職員等の意見を踏まえ、合議のもと作成している。でき上がった計画書に家族のサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行ない介護計画を見直している。各利用者につき計画作成担当者および担当職員2名の計3名が合議しモニタリングを行なっている。身体状況の変化による見直しも随時行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、受診や入院の回避や早期退院の支援を行なっている。家族の支援による通院を原則としているが、家族の事情に応じて事業所による通院支援も行なっている。その他、訪問理美容の利用、外食支援、家族のためのゲストルームの設置など体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の協力医療機関による往診を受けているほか、事情に応じて個別のかかりつけ医への通院支援も行なっている。また受診結果について家族ノートに記載したり、必要に応じて家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、利用開始時に本人・家族に事業所が可能なケアについて説明した上で指針を取り交わしている。職員は指針の内容や事業所の方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇改善・抑制防止等のマニュアルを作成し勉強会を開催している。マニュアルに沿って利用者の誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に注意を払っている。気になる対応が見られた場合はその都度職員を注意・指導している。個人の記録は利用者から少し離れた場所で記入するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先することなく起床、食事時間、散歩など利用者の体調や希望、ペースに合わせた生活支援を行なっている。何か食べたいものがあれば、3人程度のグループで外食するなど希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は一緒に会話をしながら楽しく食事をしている。調理担当者が休みの場合は積極的に調理の手伝いをしてもらう。その他、配膳、下膳、食器洗い、食器拭きなど利用者の協力を得ている。食事時間にBGMをかけ、ゆったりした雰囲気をつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができ、1人週2回程度を基本に入浴している。午前、午後とも希望に応じて入浴が可能である。利用者事前に入浴する約束をしたり、誘いかかけの工夫で、入浴拒否がほとんどない状況である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、後片付け、カレンダーめくり、体操時の声掛けなど利用者に役割を持ってもらっている。畑仕事、草取り、庭掃除、廊下掃除も手伝ってもらっている。編み物、塗り絵、パズル、かるたなどの趣味や遊びの活動も活発である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園への散歩や、毎日のお茶会を前庭で開いたりしている。グループでの外食以外に、毎月ユニット毎に行事を企画し、家族の協力も得てほぼ全員が参加して動物園やヨットハーバーなどへドライブに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各階からのエレベーターの利用は自由であり、日中玄関の鍵はかけていない。事務所に玄関付近をカメラで映し出すモニターがあり、利用者の外出に気づきやすくしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め年2回実施しており、訓練には地域の方にも参加していただいている。しかし災害時の地域の方への協力依頼はまだ行なっておらず、職員の救急救命訓練についても前回実施時から3年ほど経過し、訓練未受講の職員も存在している。	○	運営推進会議において、災害時のお互いの協力や連絡方法について地域の方と話し合ったり、職員向けの定期的な救急救命訓練の実施を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の介護記録に食事や水分の摂取量を記録している。献立は事業所の調理担当者が作成し、カロリーや栄養バランスにも配慮しており、年に1度程度、管理栄養士のチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には本や遊び道具など馴染みのものが置かれ、落ち着ける雰囲気を作っている。廊下には写真や利用者の作品が飾られ、季節感のある装飾も施されている。温度・湿度も配慮され、光や音も気になる点はない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の広さが3タイプあり、ある程度希望に沿って広さを選ぶことができる。また居室には各利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。